

二〇二一年度

群馬県立女子大学 文学部 美学美術史学科

推薦入試問題

小論文

試験時間は十時～十二時の120分です。中途退室は認めません。
途中で気分の悪くなった場合は、黙って手を挙げて下さい。

問題用紙は、この表紙を含めて十枚で、最後の二枚は下書き用の白紙です。解答用紙は二枚あります。それぞれが配られたら、指示に従って解答用紙の各々の所定の欄に氏名、受験番号を記入して下さい。
試験開始の合図があるまで問題用紙の表紙をめくって問題を見てはいけません。

解答用紙の所定の欄に氏名、受験番号を記入し終えたら、静かに試験の開始を待って下さい。

問題

次の文を読んで設問に答えなさい。

感性の統合反転作用理論

美的カテゴリーの理論を基盤としながら、感性の働きを詳しく説明する理論として、〈感性の統合反転作用〉を提唱したい。まず、わかりやすい例を二つ挙げて、理論の見取り図を示すことにしよう。それは、苦甘さと和音である。

味覚における苦甘さとは、甘みと苦みから生じる。しかし甘みと苦みがあれば、常に苦甘さが生じるとは限らない。苦いイチゴは傷んでいるのではないかと疑われるし、逆に変に甘いゴーヤーも、ただけでない。このとき、甘みと苦みは別個独立の二つの味に留まっている。ところが、ビターチョコレートのように、甘みと苦みがあるしかたで結合するとき、それは苦甘さとして、単なる甘みに一つの性格ないし陰影の加わった、深みのある甘みとして、一つの味になる。

苦甘さの要素である苦みと甘みのうち、「うまし」と訓じることもある「甘」は味覚にあっての快の代表であるのに対して、苦みは「苦」の漢字そのものが示すとおり、苦ないし不快の①権化である。その二つの要素が合して、一つのおいしい味になるのだが、とても興味深いことに、そのとき、苦みは甘みを引き立て、ただの甘みにはない深みを加える。苦が快の側に転じるのである。同じように、「辛酸」、「酸鼻」の酸味が、また「つらさ」とも読める辛みが、単独では苦であるのに、他の味と然るべきしかたで結びついた場合、おいしさすなわち快を、時には大きく増進する。一般化して言えば、味覚において、それ自体としては負である味が、あるしかたで正の味に結びついて一つの味と感じられるとき、その負は正へ反転して、快すなわちおいしさを増強する。苦いのにおいしいのではなく、苦いからおいしいのである。しかもこれは特定の人に限ったことではなく、万人の認めるところである。

次の例として、和音を見よう。和音とは不思議な現象だ。たとえばドとミという二つの音が同時に鳴ると、長三度の和音が生じる。その際、私の耳にはドの音とミの音がともに聞こえている。その証拠に、一方の音、たとえばミの音を消すと、もはやドの音だけが聞こえて、三度の和音は消滅している。このように、耳は三度の和音を聞きながら、しかもドとミの二音を聞いているのである。

このこと不思議さは、他の二つの現象と比較すると、いっそう際立つ。まず色において、白と赤を混ぜると、どちらの色もそれとしては存在しなくなり、真ん中のピンクに合流する。この構造を無理に和音の現象になぞらえれば、ドとミの二音が、中間のレの二音に合体するようなものだ。もう一つの現象として、和音と同じく音による、言語がある。たとえば二人の人が同時に私に話しかけると、あるいは私が何かを読みながら人の話を聞くと、互いが他方を邪魔し合って、どちらも理解できない事態が生じる。ふたたび無理に和音の現象になぞらえれば、ドとミの二音が一つの響きを成さないようなものだ。聖徳太子が十人の話を同時に理解できたのは、超人的能力と讃えられる。この二つの隣接現象において、二つ（以上の要素は、それぞれ独立の存在であることをやめて一つに合流するか（色）、独立の存在であり続けるために一つにまとまらないか（言語）のどちらかである。

それに対して、和音においては、各音が独立の二つの実体であることと、独立の二つの実体でなく一つの実体（和音）の二つの要素であることが、不思議に両立しているのである。独立と非独立が両立しているのだから、②矛盾律の違反と言ってもよい。西洋音楽では、二音以上の和音が用いられるばかりでなく、二つ以上の声部を独立に走らせるポリフォニーさえ発達させて、この不思議な現象の可能性を追求した。これこそ、対立の契機を含みながら辛うじて保たれる平衡状態としての調和、ハーモニーの典型であり、ハーモニーの語が、具体的にはまずもって和音を意味する所以である。和音が、万人にとって、一つの響きであるから、快いことは、言うまでもない。

和音を聞く場面をさらに詳しく観察しよう。私にはドとミの二音が聞こえていると、先ほど述べた。しかし^④それは実のところ、理論的抽象である。私の耳に聞こえているのは三度の和音という一つの響きであって、それが二つの音から成ることは、一方の音を消すことによつて確かめられた。知性による検証である。その証拠に、その二音が同時に鳴っている状態で、一方がドの音であることを確かめようとすると、もう一方のミの音が邪魔になる。知性は二つの音からなる一つの響きをとらえないのである。それに対して、耳すなわち感性は、三度の和音という一つの響きを聞く。つまり感性が二つの実体を一つの実体としてとらえているということである。先に和音と比較した、色についても同じことが言える。すなわち、ミクロに見れば混ざり合っていない二つの色素の並置を、目が一つのピンク色ととらえたわけだ。それに対して、言語は知性の働きだから、二つの話や文が一つにまとまることはない。

苦甘さと和音の例が語るのは、第一に、感性には、二つの実体を一つに統合してとらえる働きがあることだ。これは古来の美の説明の中で「多様の統一」と言われてきた感性の働きの一例である。たとえば、西洋的感性における美の条件の最たるものである均斉（左右対称、シンメトリー）は、中心線で折り返せば左右が重なり合うことだが、感性はその左右という二つの部分を、ある意味で同じものとして一つにまとめてとらえている。あるいは音楽で言えば、物理的に見れば単なるいくつかの音のバラバラな出現と消滅でしかないものを人が一つにまとめ、メロディ、リズムとして受け取るとき、そこに感性が働いている。なぜなら均斉において、中心線で折り返すという過程は想像の中で行われるし、バラバラの音と音の間につながりを付けるのも、やはり想像力の働きである。想像力とは、ここにないものをあたかもここにあるかのように思い浮かべる心の力であり、ここにあるものをとらえる感覚と並んで、感性の働きの一つである。それが多様の統一という感性の働きとして古来認められてきたものの一つであることをまず確認しよう。

苦甘さと和音の例が語ることの第二は、二つの実体を感性が一つのまとまりととらえると

き、二つの実体の一方が帯びていた負の値が、正の値に反転するということである。ただし、和音の場合、ドなりミなりの一方が個別的、絶対的に負の値を有しているのではなく、バラバラの二音としては互いに阻害し合うという意味で、一方が他方に対して相互的、相対的に負の値を帯びている。しかし感性がその二音を一つの響きととらえるとき、阻害が協力に変わるわけだから、やはり負から正への反転が生じている。私が感性の統合反転作用と呼ぶのは、このような心の働きである。苦甘さと和音は最もわかりやすい例だが、類例は無数にある。塩をわずかに加えて甘みを引き立たせる隠し味、白の塗装に一滴加える黒色塗料のような例は身近だが、マグダラのマリアの場合、娼婦しやうとしての罪深い過去はイエスへの献身というプラス面で相殺されるどころか、美しい聖女として西洋キリスト教絵画の格好かっこうの題材となった。もう一つ、この感性の働きを巧みに譬たとえて見せた梶井基次郎（一九〇一—一九三三）の短編『桜の樹の下には』（一九二八年）を挙げよう。それはこう始まる。

桜の樹の下には屍しがい体が埋まっている！

これは信じていいことなんだよ。なぜって、桜の花があんなにも見事に咲くなんて信じられないことじゃないか。俺はあの美しさが信じられないので、この二、三日不安だった。しかしいまやつとわかる 때가 来た。桜の樹の下には屍体が埋まっている。これは信じていいことだ。

後の方には「俺には③ 惨劇が必要なんだ。その平衡があつて、はじめて俺の心象は明確になつてくる」とも言う。つまり彼にとって、桜の美は、それ単独では何かふわふわした、とりとめのないものであるところ、そこに死体が埋まっついて、桜がその養分を吸収して咲いていると考えることで、はじめてその美しさが、実体のある、地に着いた美と感じられるというのだ。

我々は梶井に従って、桜の樹の下に屍体が埋まっているのに、桜は美しい、のではなく、下に屍体が埋まっているから、桜はなおさら美しい、と言えるからだ。繰り返せば、負の要素があるしかたで正の要素と結びつくとき、反転して正の値を得る。そしてそれは、万人に当てはまる。さらにこの梶井の文章は、桜の花を屍体と組で考えるようになった「いま」、急劇にこの反転が起きたことを説明する。

感性の統合反転作用は、美的変貌の普遍性、急劇さに加えて、もう一つの性質を説明する。反転前には負であった要素が、反転後に正の価を得た上は、そこに過去の（本来の）負性の痕跡を留めないことである。梶井の例でも、桜と一体になった「屍体」は、もはや本来のおぞましがが払拭されている。

（津上英輔^{すけ}『危険な美学』集英社インターナショナル、二〇一九年）

【設問】

問(1) 傍線部①～③の言葉の意味を説明しなさい。(各3点)

問(2) 破線部④とはどういうことか、二〇〇字以内で説明しなさい。(16点)

問(3) 著者の言う「感性の統合反転作用」について、挙げられている三つの例にもとづいて説明し、それに対するあなたの考えを八〇〇字以内で述べなさい。(25点)

下書き用紙①

下書き用紙 ②